

第10回 (仮称) 市民センター建設市民懇談会 会議録

1 日 時 令和4年5月27日(金曜日) 14:00~15:20

2 場 所 福島市役所本庁舎4階 庁議室兼防災対策室

3 出席者 山口哲子会長、牧田実副会長、佐藤玲子委員、池澤龍三委員、菅野廣男委員、引地洲夫委員、舟山信悟委員、藤田修一委員、阿部隆夫委員、佐藤祀男委員、阿部國治委員、原田紀之委員、霞朝子委員、阿部勢津子委員、菅野真委員

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答・意見交換

6 委員の主な発言

○委員 実施設計概要版4項の駐輪場について、2番が欠番になっているのは、途中からカットした部分なのか。要は、駐輪場のスペースとして、台数が何台かという点と元は別のところにもあったのかという点について聞きたい。

○事務局 駐輪場2につきましては、立体駐車場棟の西側駐輪場3、4の右側に駐輪場2として記載している。また、4ヶ所合計して、230台の計画としている。

○委員 ヒマラヤスギを伐採する話について、現在、第2合同庁舎を建設しているが、あそこの桜は残す方向にある一方、国と市での対応の違いが後から問題にならないのか少し気になる。

○事務局 先ほどの説明は概略的なものでしたが、実際には、樹木医にしっかり確認していただいた。市内でも、木が風により倒れ、市民の財産に被害を与えているというケースが見受けられる。西街区にあるヒマラヤスギが厳しい状況にあるということを見て、残念ながら、伐採することはやむを得ないとの判断に至った。

○議長 よろしいですか。

○委員 はい。ただ、必要か必要でないかは別として、もう少し市民に対する情報公開とか、事前の説明が必要ではないかなという気がする。例えば合同庁舎の桜もそうだったと思うが、樹木医に診てもらったり、延命措置もやったりしたような気もする。こちら倒すなら倒すなりに、もうどうしようもないということを、きちんと市民の方に説明することが必要ではないかなという気がする。

○委員 遠藤一会長の時代に、記念植樹をするため、各町会から1万円集めて寄付をしたという引継ぎを受けている。その辺も調べてもらい、きちんと対応をしてもらいたい。

- 委員 一つ目は、実施設計概要版第7項にある大ホールについて、渡利学習センターを建設していただいた経験を踏まえ、なおかつ事業団体の皆様とご意見交換した中で、大ホールの音響の関係で、反響がひどくならないように是非とも点検して欲しいと思う。二つ目には、同第9項の各講義室について、今後、後期高齢者が利用することも想定し、どういう事業を展開し、この部屋はこう使う、とかいう長期的な視点を持って計画してほしい。例えば、パソコン教室をやるにしても、パソコンに使う電源コンセントが1個では、何ともしようがない。つまり目的に沿った、こういう人にはこの部屋を貸し出ししますというように、利便性が図られるようにきちんと考えてほしい。さらに、施設は立派になるわけなので、それに向けた市民の学習意欲とか、新たな健康増進をするためにどうしていくんだ、という事業とセットで、活用を含めた計画をお願いしたい。また、本庁舎の駐車場の案内も、きちんと案内する看板を作った方がいいのではないかな。仮設的なものを、変なところでケチるのではなく、庁舎として相応しい看板をつくるべきではないか。駐車場の問題も、高齢者が利用することを想定して、道路で渋滞ができたりしないような検討もしっかりお願いしたい。
- 委員 3階平面図について、東側や南側中央部の点線は何を表すのか。
- 事務局 ミーティングができるようなスペースを計画し、点線は備品のテーブルをイメージしている。
- 委員 今回の設計を見させていただいて、非常に中身が濃い、素晴らしい設計だと思う。ただ1点少し心配するのは、やはりどうしても密度が濃い建物が故、中廊下の建物だと、どうしても災害時に暗くなる可能性は出てくるため、災害時の避難活動が速やかにできるような計画をしてほしい。これから工事が始まったときに、例えば、防火戸の色が白地の壁に白地で塗ってしまうと分からなかったり、物を置いてはいけないところに物が置かれてしまったりする傾向がある。建物を生かすも殺すもその使い勝手を良くしていくことが重要だと思うので、費用が格段にかかる訳でもないため、いろんな弱者の皆さんが避難しやすいような色彩計画をしっかり検討しながら進めてもらいたい。
- 事務局 色については建築工事の中で、最終的には決めていくが、防火戸の色については、デザイン的な部分も多分にあることから、考えさせていただきたい。ただ、避難の際にわかりやすくすることはもちろん必要だと思っている。ユニバーサルデザインに関する意見交換会でもあったが、例えば耳が聞こえない方は非常放送が鳴っても気がつかないため、視覚的に知らせる仕組みが欲しいのではないかなというご意見があり、取り入れた経過もある。非常口の誘導灯も、火災のときには光を出してお知らせすると、というようなもので設置していく予定。また、物を置かないようにするための仕組みについても掲示にするのか、床面の表示でやるのか、といったことも検討させていただきたい。

- 委員 大ホール、小ホールの収容人数をお聞きしたい。それから、音響は大切なところかと思しますので、ぜひ抜けのいい音響にこだわってお作りいただきたい。
- 事務局 机の置き方によって収容人数の考え方は変わるが、スクール形式で大ホールは156人、小ホールは84人。音響に関しても、吸音材を使用したり、音の反射を抑えるような材料を選定したりしたことに加え、設計事務所でも残響時間を計算し、チェックをしながら設計した。
- 委員 前計画では、市民の防災施設、避難所と位置付けもあったと思うが、備蓄倉庫は今回なくなった中で避難所の役割を考えた際の機能はあるのか。
- 事務局 電気については、自家発電を備えており、水については、水道本管と直結した耐震性貯水槽を計画している。タンクとしては100トンの容量があり、競馬場や平和通地下にある貯水槽ともカバーし合いながら備える計画としている。
- 委員 この会自体が、皆さん集まったのも2年ぶり、最後が令和2年の4月だったか2月だったかと思うが、その間に基本設計が固まって実施設計になった。設計については、特に何も言うことはないが、設計コンセプトの中で、一番目に、市民が身近で愛着を感じる複合市民施設、二番目に、市民との共創による整備、というのがあがるが、これについて設計する段階でどのように考えて設計をされたのか。設計事務所は別だと思うが、市としてどのような考えで指示をしたのか、教えてもらいたい。
- 事務局 まず設計段階につきましては、こちらの懇談会やユニバーサルデザインに関する意見交換会や中央学習センターの利用団体の方々からも意見をいただきながら、設計の方は取り組んできた。また、今後、共創とか愛着といったものを実現するにあたっては、デザイン的な部分でガラス面にグラフィックシートみたいなものをデザインするようなことを考えており、そういったデザインを市民に参加してもらおうとか、名称についても、愛称を市民の皆さんからいただくとか、そういったことでこの建物に愛着を感じていただければと考えている。
- 委員 敬老センターも複合化することになっていたが、絨毯敷きのような部屋はあるのか。また、敬老センターは、60歳以下は使って駄目だと思うが、市民センターではどうなのか。
- 事務局 基本的に複合施設ということで、学習センター・敬老センター・市民会館の機能が市民センターの中に入るイメージのため、例えば元市民会館の機能はこの部屋限定というような形ではない。和室と同様の機能の部屋としては、二階平面図の208講義室に大中小とあるが、靴を脱いで使用できる部屋としており、畳については、設計段階では検討させていただいたが、メンテナンスコストを考慮し、クッション性のある床材を想定している。また、間仕切りを取り払うと、親子フリースペースまで一体で使えるようになる。

- 委員 この設計を決めたときは、学習センターの稼働率が一番低い時でしたが、学習センターはすごく利用率が高くなる時もある。過去、利用団体数が180あったことから、利用率をうまく循環させていけるような検討をお願いしたい。
- 委員 三階から上の非常用の進入口はどこに設ける予定なのか。はしご車から進入するような入口はどうなっているのか。図面を見ると、ガラスのところは全部部屋の中に入っているように見え、通路に設置しているガラスがないように見えるが、どうようになっているのか。
- 事務局 はしご車からの進入口となる非常用進入口と言われるものの代わりに代替進入口を、建築基準法の基準に基づき設置をしている。場所については、部屋の中にある窓を使う計画になっている。
- 委員 閉め切られたところにあるなら、市民しかいない場合でも誘導できる体制が必要かと思う。
- 委員 運用、管理運営についてワーキングチームを作って検討していくとあったが、その結果についてはこの会議でもご報告いただけるのか。
- 事務局 ワーキングチームの内容についても、この懇談会の方に、しかるべきタイミングに報告させていただきたいと思っている。
- 委員 運用については、疑問点がいっぱいあるため、ワーキングチームである程度固まってからの話でなくて、その前に課題の抽出の段階でも報告してもらえればという希望がある。
- 委員 去年の2月の懇談会の資料の中で、管理運営に関して市の職員に直営と書いてあるが、この辺について、実際に皆さんの中で話をしていないので、もう一度話をした方がいいのではないかなと思います、今日あえてお話をさせていただく。資料を見させていただくと、市の直営でやる意義というのはすごく書いてあり、確かにその通りだなというところもあるが、先ほど質問させていただいた基本的な考え方のうち、共創という言葉について、市長もすごく力を入れており、市民との共創を大事にしようという話を毎回されている。その中で市の職員だけで運営することについて、それが本当にいいのか。たとえ少なくとも、一般の方、というかNPOを含め、ここにいる方でもいいと思うが、職員として何人か入って一緒にやるっていう姿の方が、本来の市民共創の形に近いのではないかなと思うので問題提起をした。市の直営というのが既成事実で、もう決まりというのはどうなのかというのを、皆さんの中でちょっとお話していただきたいと思う。
- 議長 管理運営に関して市の直営ということでもいいのかどうかという点について、これは設計のコンセプトとしてあるが、ここと合致するのかどうかという考えについて皆さんがどう思うかというご意見が欲しいとのことだが。

- 委員 今、市の直営の話が出たが、唐突に、学習センターが運営するという話も出た。それに関し私も少し疑問があり、学習センターは火曜日が休みで、ガードマンしかいない場合、申し込みもできないし、何もできない。秋田市に視察に行ったが、秋田市は市民団体が運営しており、それを公民館の職員が使ってもいるという話を聞いていたから、何故直営なのか、ましてや学習センターが運営するのかというのがちょっと疑問だった。どのタイミングで話を出したらいいのかとはずっと思っていたが、本日の説明資料第5項にあるように運用についてはこれからだということなので、少しずつ私どもも意見が出せる場が欲しいなど思っている。
- 委員 学習センターとしては、もう直営ということで、以前から言葉を出させていたでいるので、直営で行うことを望んでいる。
- 委員 運営協議会に運営を委ねるといようなイメージか。
- 委員 私がイメージしたのは去年の2月25日の資料第6項に中央学習センターにおいて公民館における実態調査を市で行い、中核市及び東北、新潟の人口10万人以上の市71市のうち、直営でないと市はほとんどないと。直営でないところは、長岡市の施設だが、そこは市の職員とNPOの職員と一緒に働いている。施設の中に市の目線ではない別な、民間団体の目線を持った人が職員として働いている。学習センターの役割を考えると、確かに直営といったところも欲しいと思うが、今回のコロナ禍でもそうであったように、民間の考えというか、意識ってというのはどんどん変わっていく一方、市民協議会みたいなところだと、年に1回ぐらいしか意見を聞く機会がない中で、すぐ動けるかといっても動けないと思う。そこで、できればその団体の中で、「市も考えているが、民間はどう考えている？じゃあ、来週の事業はこれをこうしようか」というように、その場でどんどん決めていけるような団体というか、形がいいのではないか。それは長岡がうまくいっているので話をした。
- 委員 中央学習センターという位置付けを変更したら駄目だと思う。福島市には学習センターが数多くあるし、歴代の首長さんが、生涯学習の位置付けをしてきた。会館の貸出とか、そういうことは民間とか、各種団体でできると思うが、社会教育の一環の学習センターということを忘れないで欲しいと思うし、他の学習センターの指導役割も中央学習センターが行う位置付けがされているので、そこは絶対忘れて欲しくないと思う。
- 事務局 この場合は、学習センターがどうあるべきかを考えるのではなく、学習センターが中にあるでもいいが、市民センターとしてどうあるべきかを考える場だと思う。民間の研修でも使いやすいとかってというのは学習センター条例にはない部分もあるため、それらの利用者の想定もしなくてはならず、最初から学習センターが運営するとすれば、学習センターの職員が大変になるのではないかなと思う。これから、学習センターありきではなくて、(仮称)市民センターをどう運営するかを協議していただきたい。

- 委員 公民館部分がきちんとしているのであれば。
- 委員 市民会館の利用者は民間会社の人もある。市民会館の代わりに（仮称）市民センターを使うこととなり、生涯学習の利用者だけでなく、色んな市民の人の要望に応えなくてはならなくなる。そのため、新しい施設を管理していくうえで、今までの運営審議会とか利用団体だけではなく、広い視野にたって管理運営をしていくうえで、これまでよりも幅広い市民を巻き込んだ団体を作る必要があるのではないかということの問題提起されていると理解してよいのか。
- 委員 そういう管理運営のやり方を一から検討して、いろんな可能性を挙げながら検討していければ一番いいのではないか。今回提起されたような、まさに共創という名前にふさわしいような運営の仕方があれば、その可能性も初めから排除するのではなく、きちんと探っていくべきだという点では皆さん合意できるのではないかと思う。
- 事務局 ワーキングチームを立ち上げて話を進めておりますが、現在提起されたような、市民の方を巻き込んで運営するという点についてはワーキングチームの中では議論に挙がっていなかったため、我々の方で改めて、運営の仕方について、どういった形がいいのか、考えていきたいと思う。
- 委員 方法論としては、いろいろあると思うので、ぜひその辺も含めてご検討いただいて、できれば早めにこっちにフィードバックして戻してもらっていか、そんな形でさらに検討を加えていただきたい。
- 事務局 ワーキングチームでも、先ほどお話があった通り、新しい多様な使い方を想定しているので、縦割りではなく横の連携をしながら検討していきたい。また、皆様にも情報提供しながらご意見いただいて、やっていけるようにしたい。

-以上-